

<熊野古道撮影会作品コンテスト>

最優秀賞は藤原純三作品に

8月例会で13本の撮影会作品が出品され、予想以上の出品数に嬉しい悲鳴でした。おかげで一般例会作品が上映できず持参された方にはご迷惑をおかけしましたが9月例会に優先上映しますのでご持参ください。

今回は採点方法に1位3点、2位2点、3位1点の重みづけをして採点しましたので、従来の単なる票数だけの順位づけにくらべて点数が大きく開いてはっきりした傾向が出ました。藤原作品は娘さんのナレーション入りで分かり易く構成されたのが受けたようです。総じて皆、よく頑張ってまとめられたと思います。

最優秀賞	藤原純三さん	不思議熊野古道	13分20秒
優秀賞	合原一夫さん	友美ちゃんの熊野古道体験記	17分40秒
入賞	前田茂夫さん	古道幻影	14分40秒
入選	今井羨美さん	熊野古道探訪	13分30秒
入選	安居利次さん	時空をこえて	13分30秒
努力賞	江村、奥、安居良枝、有村、岡本、森、渡辺、勝の皆さん		

9月例会と作品研究会のお知らせ

9月例会は25日(第4土曜日)18時より、作品研究会は13:30から、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)で行います。今月までの例会作品の中から11月のOMC公開映写会作品を選定しますので、出品希望者は作品ご持参下さい。また研究会の方は熊野古道撮影会の皆さんの作品を中心にドラマづくりやドキュメンタリー作品の撮影、編集、音づくり等の研究会を行います。撮影会未参加の方も大変勉強になると思いますので、是非ご参加下さい。(会場負担費500円)

8月例会のレポート

8月例会は撮影会作品が予想以上に出品数が多く、その審査のため一般作品は映写することができませんでした。例会記録表に記入された一般作品は9月例会で優先して扱いますのでご了承ください。

■今月の司会は有村さん、書記に関さん、デッキ係、奥、渡辺の両氏、受付兼照明係、安居良枝さんが担当しました。今月は撮影会作品の公開審査が中心でしたので、各作品ごとの例会上でのコメントはありませんでしたが、脚本演出の関さんより以下のような短評を頂きました。

■今月の出席者：金子、森、有村、安居夫妻、奥、岡本、渡辺、宮崎、関、華岡、那須、中尾、勝、合原、前田、末岡、藤原、今井、江村、森下、高田、上総の23氏。

熊野古道撮影会、審査結果と作品評

- ①時空を超えて 5位 安居利次さん 13分30秒
体験博の開幕セレモニーで始まり、那智の飛龍神社で終る独自の解釈で編集された作品。これならもう少しシナリオを省略してもよかったですね。
- ②熊野幻想 森 保信さん 12分48秒
「和泉式部の和歌によせて」の副題つき。シナリオに従って作られています。八上王子の写真シャッター内カットでちょっともたつきました。
- ③古道幻影 3位 前田茂夫さん 14分40秒
やや音楽が弱いようでしたが完成度は高く、ほぼ完璧です。3位に甘んじる作品ではないと思うのですが、皆さんの審査基準がどうやらナレーションの有無に傾いている気がします。脚本を書いた私としては到底納得できません。
- ④魅いられて 同数次点 安居良枝さん 11分20秒
独自のアレンジを加え、良枝さんなりの特徴がでています。ナレーションで殊更に話の筋道をつけようとしていますが、このドラマは定まった枠があるわけではなく、抽象的なまとめ方でもかまわないのです。そこがこの脚本を書いた私の目標でもあるのですから。
- ⑤友美ちゃんの熊野幻想体験記 2位 合原一夫さん 17分40秒
「古道を訪ねた友美ちゃんは…」という式のナレーションがいつもの合原節でつきます。集まった作品中最長編、その長い分をイントロが占めたようでした。
- ⑥幻のひと(女)熊野を行く 渡辺雄史さん 13分30秒
なにか推理小説のようで、題名に凝りすぎた感じですが。シナリオに準じて作られてあるのにもうひとつ印象が薄いのは選曲の違いからくるものでしょう。
- ⑦古道幻影 勝 成忠さん 12分30秒
全体的には無難なまとめ方になっていますが、上位にくいこめなかったのはカットつなぎのタイミングのまずさでしょう。惜しいですね。
- ⑧熊野古道探訪記 4位 今井義美さん 13分30秒
女声でプロ並みの立派なナレーションがついています。しかしこの作品もカットの処理でもたつきました。とくに木橋の全景が2度も出てきたのはなぜでしょう。選曲も合っているとはいえませんが。

⑨ 古道幻影 同数次点 奥 宏さん 13分40秒
熱心に取り組んだ跡がうかがえます。その思い入れが強かっただけミスも目立ちました。

とがの木茶屋の前の平安は現代の女が追っている場面です。つまり女の眼で見た後ろ姿の平安であるべきですが、なぜかカメラに向って歩いてくるのがありました。そのほか御幸行列と木橋にもややカット処理のまずい点がみられたのは残念です。

⑩ 私、熊野古道を歩いてん 有村 博さん 11分17秒
カット不足でまともに編集ができず、こんな仕上げになったと思います。もともと難解なシナリオがなお一層わけの判らないものになりました。7月中旬には既にこのスタイルで完成し、これを託された岡本さんが上富田と中辺路の皆さんにご披露しました。率直に申し上げますが、不評だったそうです。

⑪ 熊野幻影 同数次点 江村一郎さん 9分30秒
ちょっと荒っぽい面もありますが、おもいきった省略方法を積み重ねることで江村さんの独自性がでています。とはいってもシナリオに沿った作り方。ここまでやるなら、いっそシナリオから脱却し、完全に江村さんのものにしてほしかったですね。

⑫ 不思議、熊野古道 1位 藤原純三さん 13分20秒
ほとんど完璧に近い作品。お嬢さんの歯切れよいナレーションが心地よく耳に入ってきます(私としてはナレーションを入れたこと自体が気に入りませんが)。お盆休みのたった3日間で完成したとはとても思えません。八上王子の写真シーンで、ファインダー画面が瞬間的に2度出てきました。それとどのシーンか忘れましたが、⑨の作品と同様、平安が手前を向いて歩いてくるのがありました。OMCフェスティバルまでにぜひ修正をお願いします。

⑬ 熊野古道幻想 岡本至弘さん 14分30秒
シナリオどおりの完成度の高い作品です。全般にオーバー気味ですが、このカメラの癖でしょうか。輪郭にノイズがたくさん出ていますから修理の必要がありますね。

熊野古道撮影会作品の審査を終えて

ほとんどの人がドラマの脚本を手にするのは初めて、もちろん撮るのも初めて。予備知識を得るための講習などまったくなし。そんな冒険とも思える条件の中でむりやり突っ走った撮影会でした。

終わったあとで参加者から聞き出した感触はすこぶる良好と思いましたが、なにしろあの複雑で判りにくい脚本です。撮影順序はあっちこちに飛ぶし、編集は平安と現代が交互に入れ替わる。その混迷と煩わしさでいつもの作品づくりの倍以上の根気と労力を要したに違いありません。果たして何本でてくるか。そしてその完成度は。正直なところ少々悲観的でした。7~8本が妥当なところ。もし10本もでたらそれこそ万々歳です。

ところが開けてびっくり13本。実に87%の高出品率。それにその完成度の高いのに驚きました。脚本を書いた者にとってこんな嬉しいことはありません。仕上がりを何度も検討する時間的余裕のあったことも幸いし

ましたが、むつかしい課題を熱心に取り組んだ努力の跡がどの作品からも見てとれます。そして何より、皆さんの質の高さと作品にかける情熱に頭の下がる思いがしました。今回の作品について私からもささやかですが、前田茂夫さん、藤原純三さん、安居良枝さんの三作品に監督賞を出ささせていただきました。

関 記

99 OMC撮影会公開審査を終えて

企画

岡本至弘

去る8月28日(土)撮影会作品の公開審査が行われました。撮影会参加者16名中、関監督を除いて13作品というかつてない本数が出たことは、企画者にとって大変嬉しく、本当に有り難うございました。

結果については後述するとして、今年の撮影会について、念頭に合原会長に、今年は私の故郷、和歌山(熊野)で「南紀熊野体験博」が開催されるので、OMCの皆さんに南紀熊野を映像に残して戴きたいと思い、これに便乗した撮影会はどうやろかと申し上げたところ、3月初旬会長より連絡があり、早速会長宅で関さんを交えて打ち合わせをしたところ、まずはロケハンをということで、3月21～22日に熊野古道を下見しました。ところがパピリオンは建設中、こんな山川を撮影してどう作品にするか心配をしていたところ、帰路関さんが、平安衣装を借りられるのならドラマを考えようということに決まり、準備を進めてきました。

そして、6月5～6日に多数(16名)の参加者で撮影会を開催することができ、成功裏に無事終了することが出来、誠に有り難うございました。関監督には、脚本、演出、また何回も現地に赴いて戴き、大変なご苦勞に敬意を表します。

さて、公開審査の結果は、OMCニュースの通りとなりました。入賞の方々には本当におめでとうございます。

私は先に公開審査とは別に、企画の意図をくみ、南紀熊野をよく表現され、宣伝効果を高められた作品にささやかな賞を差し上げますと申しておきましたが、作品はすべて素晴らしいもので、甲乙がつけがたいものばかりです。

講評は先輩の方にお譲りして許されるならば、南紀熊野をよく表現されたかどうかについてのみ、審査結果前に独断と偏見で選ばさせていただきました(うらみっこなし)。企画大賞にナレーションをいれて大変わかりやすく、幻想的につくられました藤原純三さんの「不思議熊野古道」を企画賞に、熊野博のテーマソングをいれて肩のこらないユーモアに仕上げられた有村博さんの「私、熊野古道を歩いてん」、現地の方に親しみやすくソフトに作られた合原一夫さんの「友美ちゃんの熊野幻想体験記」、優れたカメラワークとシナリオに忠実につくられ、監督賞にも輝いた前田茂夫さんの「熊野幻影」、また女性の立場から平安の女性に思いを馳せた安居良枝さんの「魅いられて」を挙げさせていただきました。他の方も素晴らしい作品ばかりでしたが、予算の都合上割愛させていただきました。

以上今回の撮影会には、私の故郷に赴かれ、多数の参加とご協力本当に有り難うございました。また優れた作品を現地の方に提供された方には心よりお礼申し上げます。